

### 教科等別年間指導計画

学年	2	教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字を用いた式について、目的に応じて計算したり変形したりする能力を伸ばすとともに、連立方程式について理解し、それを用いる能力をやしなう。</li> <li>基本的な平面図形の性質について観察操作や実験を通して理解を深めるとともに図形の性質の考察における数学的な推論の意義と方法を理解させる。</li> <li>具体的な事象を調べることを通して、1次関数について理解するとともに関数関係を見出し表現し考察する能力を養う。また具体的な事象についての観察や実験を通して、確率の考え方の基礎を培う。</li> </ul>		
教科	数学	目標			
授業方法形態	少人数指導	先生から一言	「基礎コース」と「発展コース」の2つのコースで少人数でおこないます。わからないことや気づいたことは積極的に発表をしていきましょう。さらに数学の興味・関心を高め、数学の知識・理解や計算の力を伸ばしていきましょう。		
月	単元名	単元のねらい、内容	評価規準・方法等	総合的な学習、ことばの教育、読解教育、備忘録等との関連	職
4	式の計算	文字を用いた整式の四則計算が数と同じようにできることを知り、また正しく計算ができる。事象の中に数量の関係を見だし、それを文字を用いて式に表現し、活用できる。量および数量の関係をとらえるために文字式を利用できる。また、目的に応じて、式を変形する。	式や次数、同類項について理解できる。加法、減法、乗法、除法について理解できる。文字式を用いて数の性質が説明できる。等式が変形できる。	授業の進め方 ノートの記入の仕方	2 1
5					1 8
6	連立方程式	2元1次方程式やこれらを連立させた方程式を解くことの意味を知り、また、方程式の解法について知る。連立2元1次方程式を、実際の問題解決に応用する。	加減法、代入法による解法ができ、連立方程式の解を求めることができる。問題の中の数量の関係を連立方程式に表し、その問題を解くことができる。	説明する力	
7	一次関数	事象の中に1次関数の関係にある2量に着目し、式、値の変化、グラフなどを通してその特徴を理解する。方程式やその方程式が表すグラフについて理解し、それらの関係について知る。とくに2直線の交点と、2直線を表す2つの式を連立方程式と見なしたときの解とが一致することを理解する。事象の中にある1次関数の関係にある2量を見だし、1次関数の性質やそのグラフの特徴を利用して問題を解決する。	1次関数の式を作ることができる。式から表を作ることができる。グラフに表すことができる。式から切片と傾きを利用してグラフがかけられる。連立方程式との関係を理解する。	文章を読み取る力 グラフ、表の活用	2 1
8					
9					
10	図形の性質と合同	観察、操作や実験を通して、基本的な平面図形の性質を見だし、平行線の性質をもとにしてそれらを確認する。平面図形の性質を三角形の合同条件などをもとにして確かめ、証明する必要性を理解し、論理的に考察する。平面図形の性質を三角形の合同条件などをもとにして確かめ、論理的に考察する。	対頂角、同位角、錯角の意味を理解する。三角形の性質から多角形の考察ができる。合同条件を理解する。証明の仕方を学び、合同条件からいろいろな問題を証明できる。	推理する力	1 9
11					
12	三角形と四角形	平行四辺形の性質を、平行線の性質や三角形の合同条件などをもとにして確かめる。四角形の性質に興味をもち、平行四辺形、長方形、ひし形、正方形の性質やそれら相互の関係を明らかにする。	二等辺三角形や直角三角形の定理を証明できる。平行四辺形など四角形の特徴や条件を理解し、証明できる。等積変形ができる。		2 2
1					
2	場合の数と確率	具体的な事象についての観察や実験を通して、確率について理解する。起こりうる場合を順序よく整理するなどして、事象を数理的にとらえ論理的に考察する。	順列や組み合わせの樹形図が正しく書け、それぞれの場合の数が正確に出せる。順列や組み合わせに関する事柄の確率を求めることができる。		1 1
3				自分の進路の実現	
2年のまとめ					